

寺
ごよみ

七 月

- 一 日 音沢お講④
- 三 日 仏婦研修会
- 四 日 清掃奉仕
- 一五日 永代経準備

永代祠堂会

- 一六日 総代物故者法要
中陣お講
 - 一七日 寺族物故者
戦没者追弔法要
 - 一八日 仏婦物故者法要
特別仏教講座
 - 一九日 ご満座
内陣法名法要
- 講師 霊山勝海師

寺 報

善 巧

発 行

〒 938-0862 富 山 県
下新川郡宇奈月町浦山497
白 雪 山 善 巧 寺
T E L (0765) 65-0055
F A X (0765) 65-0975
メー ル zengyou@box.email.ne.jp

講 師 本願寺派勸学

霊 山 勝 海 師

七月十六、十九日
永代祠堂会



華麗な緞帖が降りて終焉を告げた…。寺門全員、誰もが予想だにしていなかった前坊守様の急逝である。

前坊守様は木辺錦織寺本山の血を引き、大正七年本願寺由緒の滋賀本行寺にその生を受けられた。娘時代、二十代の若さで本山執行長（現在の総長）を務め、また光瑞親王最高のブレンとして当時珍しかった外遊を度々された父、藤山尊證師から大局を遠望する姿勢を学び、また母からは大らかなところと厳しい躰を受けられたと聞く。

前坊守様を偲ぶ

声さえ出さず、むしろ寡黙であつた前坊守様。誰も前坊守様が他人の悪口をおとしやるのや愚痴、世間的な噂話を聞いたことがないであろう。そんな不毛の俗事に煩わされるよりも、もっと大きい視点を持ち、多くのご門徒と共にある事の大事さを充分に自覚し、坊守の座を大切になさっていた。かつて戦後の混乱する時代、能く住職を支え、妻として、母としての義務を立派に果たされたその足跡は無限に大きい。また老いては若い世代が自由に教化活動に励む姿を、温かく見守られた…。葬儀を哀しく飾る梨園の名優たちの供華を眺めながら、前坊守様の生前の世界の広さを、今にして知らされる我々である。

八尾聞名寺住職

霧野 雅磨 師

（師の父上は前坊守喜子の兄にあたります）



本願を聞く③

行信教学校校長
本願寺派勸学

梯 實圓 師



阿弥陀如来さまのご本願（第十八願）の中で一番大切なのは、「至心信樂欲生我国、乃至十念」というお言葉です。「至心に、信樂して、我が国に生まれんと欲って、すなはち十念に至るまでせよ。」と読みます。親鸞聖人のお心によって簡単にその意味を申しますと、「私の真実なる本願を疑いなく受け容れて、私の国に生まれようとおもつ

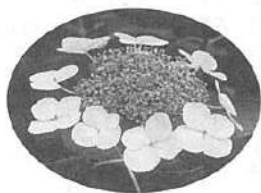
て、たといわずか十遍であつても、念仏をもうしながら生きなさい」と願われているのです。そのはじめの、「至心に信樂して、我が国に生れんと欲え」といわれたのを三心といい、信心のおいわれを述べられた言葉であり、後の「すなはち十念に至るまでせよ」といわれたのは、お念仏を勧められたお言葉です。ですから一口で言えば「本願を信じて念仏しなさい。」と仰せられているのです。初めの「至心」というのは真実心のことです。善導大師が『観無量寿經』に説かれた至誠心・深心・回向発願心という三心の

おいわれを注釈されるときに、「至誠心」とは真実心のことでありといわれたのを承けて「至心」とは、真実心のことであるとおっしゃったわけですね。「うそ、いつわりのないところ」ということですね。真実の「真」というのは仮に対する言葉であり、「実」というのは虚に対する言葉であるといわれます。仮という字は、もともと仮面をかつていてる状態です。その面をとりますと違う顔が出てくる。つまり人に見せている顔とホントの顔が違うわけです。ですから真というのとは面をかつぶらない、もともとの顔のことです。いいかえれば見せかけと本物とが違うことを仮といい、そのようなごまかしをせず、本物を本物の通りに表していることを「真」といい、「まこと」というのです。

「実」というのは「みのり」というように、中実がいっぱい詰まっている果実のことです。しかし栗なんかでもそうですが、外から見えていたら、ちゃんと実が入っているように見えていながら、開けて見たら中は虫が食つて腐つてしまつていて、腐つてしまつていて、それが「虚」というのです。虚は「むなし」ということですが、初めから何も無いというのではなく、中身があるように見えていて中を開けて見たら中は虫が食つて腐つてしまつていてということがあります。それを「虚」というのです。虚は「むなし」ということですが、初めから無いものがない、というのが、中身があるように見えていて開けて見たら何も無い、空っぽ。その時は裏切られた感じがするでしょう。そのような場合に虚という字を使うのです。この虚しいに対して、中実が

いっぱい詰まっている、充実している、そのような場合に「実」という字を使うのです。だから真実という言葉は、表だけ飾つて中身は違うというような仮でも無い。また見せかけだけで、中身が腐つていてというようなものでもない。内も外もほんとに充実していることを真実というわけです。

『浄土和讃』に、「真実明に帰命せよ」というお言葉があるでしょう。国宝本の和讃に依りますと、その真実の「真」の字の左側に「いつはらず、へつらはぬなり」と書いてあり、「実」の左には「かならずもののみとなるなり」と書いてあります。「もののみ」ということは、「実がなる」こ





とで果実のような充実した果報を私どもにもたらしてくださるのが阿弥陀如来さまのお働きであるというのです。いいかえれば真実というのは、偽りもなく、へつらいもなく、ほんとうに豊かに充実した果報——往生成仏という果報——を私どもに与えてくださるのが、如来さまの智慧の光明のはたらきであるから、如来さまを「真実明」と申し上げるのです。

ところでそのような真実心を持つておられるのは如来さまだけであつて、人間はもともと持ち合わせていないと親鸞聖人は仰せられるのです。この『尊号真像銘文』にも「至心とは真実とまふすなり。真実とまふすは如来の御ちかひの真実なる

を至心とまふすなり」とおっしゃっています。なぜかという、「煩惱具足の凡夫はもとより、真実の心なし、清浄の心なし、濁悪邪見のゆえなり」といわれています。これはきつい言葉ですね。煩惱具足の凡夫というのは、いつも自己中心的な想念に支配されていて、あらゆる事柄を、自分にとって利益になるか、損にな

私の国に生まれようとおもいなさい

るか、自分の幸せのために役に立つか、邪魔になるかを考えて行動する者ということです。役に立つものは大事にし、愛するが、邪魔になるものに対しては怒り、憎み、ねたみ、そねむような生き方をしていく者を煩惱具足の凡夫といわれているのです。こうした濁りきつた心、邪な心しかもっていない私は、いつも人を

傷つけながらそれを恥ずかしいとも思わずに生きていきます。とても仏さまの前に出られるような真実の心は持ち合わせていないとおっしゃっているわけです。

ですから本願に「至心に信樂して、我が国に生れんとおもへ」と仰せられた至心、すなわち真実心とは、私どもに真実心を起こせといわれたので

はない。至心というようなところは如来さまの真実の他にないと親鸞聖人は仰せられるのです。私の心の奥底まで見通されている如来さまが、清らかな真実心など、全く持ち合わせていない濁悪邪見な私に、浄土にふさわしい真実心を起こせといわれるはずがないからです。至心とは「うそ、いつわり」の全くまじわ

らない清らかな如来さまの大智、大悲のころのほかにありません。

いいかえれば、私をお救いくださる如来さまの大智、大悲のころに一点の「うそ」も「いつわり」もないことを至心といわれたのです。したがって本願に「至心に信樂して、我が国に生れんとおもへ」といわれているのは、うそ、いつわりのな

い「如来さまの至心を信樂して、私の国に生まれようとおもいなさい」といわれていることになりました。それを『尊号真像銘文』には、

信樂といふは、如来の本願真実にましますを、ふたごころなくふかく信じて疑はざれば、信樂と申すなり。

といわれたのでした。

(つづく)

専精舎追弔法要参拝

仏教を深く学ぶ学塾、行信教校の最大の行事「専精舎」へのお参りも回を重ねます。

今年は昨年亡くなった明弘住職と、教校教授の騰瑞夢先生、宮崎清先生の追悼法要が営まれました。善巧寺から十二名がお参りさせていただいたこの日のご法話は、山本攝叡先生、梯實圓和上、そして夜は那須野浄英先生と、おなじみの先生方のご出講で、一日お聴聞を堪能しました。



中央が若かりし頃の明弘師、左に父興弘師

花の誕生会

四月二十五日

今年は数年ぶりの晴天。
十四組の赤ちゃんの誕生
を仏前にてみんなで喜び
ました。



浦山の善巧寺で25日、釈迦の誕生日にちなんだ花まつりが行われ、境内にはチューリップ12万本が敷き詰められた一写真。

チューリップは地元の農家が球根栽培用に切り落と



したものをお願い、飾り付けた。子供の誕生後初めて寺に参る「初参式」も行われ、雪山俊隆住職が

幼児に念珠を贈った。式後、家族で庭いっぱいのチューリップを背景に記念撮影していた。

北日本新聞より



今年は花の会が仏教讃歌を歌っていただきました

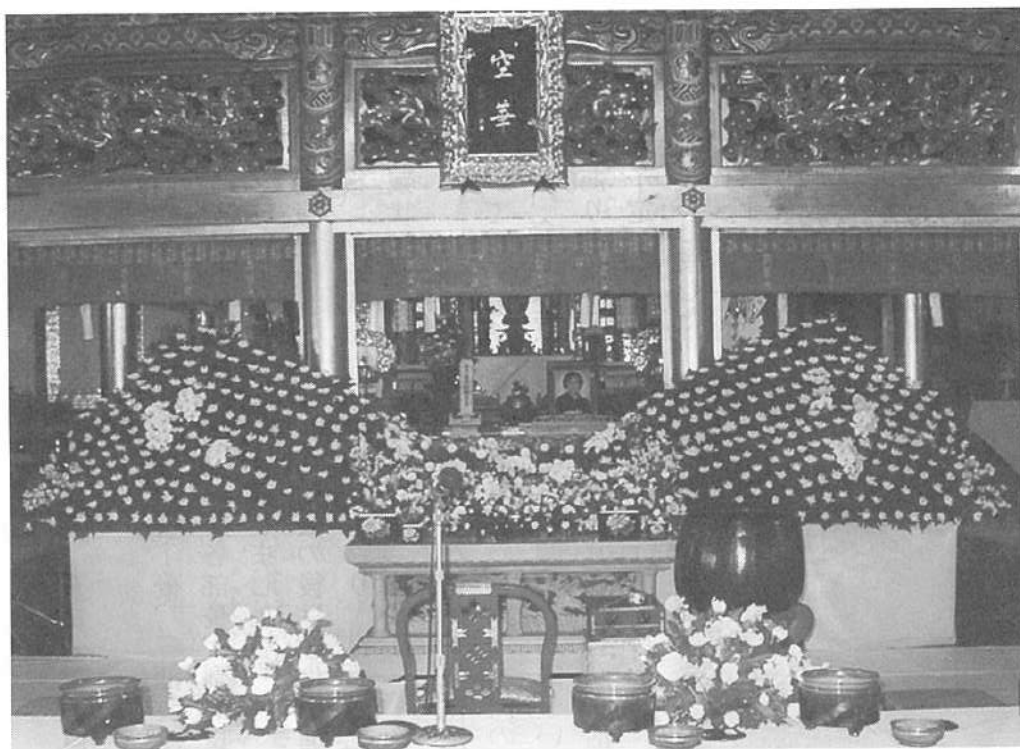


みんな おめでとう！

前坊守慈光院釈慶喜往生 三月二十五日

門徒さんには号外でお知らせしましたが、喜子前坊守の荼毘式が三月二十九日善巧寺本堂で執り行われました。本堂内陣

に置かれた棺の前には白い菊の花が一面に飾られ、喜子前坊守の写真が、生前のように微笑んでいました。葬儀は称名寺住職



お導師のもと組内、親戚法中により厳粛に勤まり、責任役員、野島義春さん、仏教婦人会の菊池れいさんから弔辞の言葉を頂きました。

総代、仏婦、夢

を語る会、花の会、雪ん子シニア、雪ん子劇団、そして一般の方々が多数お参りくださいました。いつまでも生きておられるかと思つたと多くの方がおっしゃっていました。どんなに若く見えてもどんなに元気でも人はいつかは世に別れを告げるものと、教えてくれたことです。



また七日ごとのお勤めには法輪寺・照行寺住職に思い出話を交えながらご法話をいただきました。満中陰法要(四十九日)は身内でお勤めし、高務哲量先生にご法話をいただきました。



総代の方々 参拝者の皆様 ありがとうございます

総代会、教化推進協議会 五月三十日

五月三十日午後、平成十六年度総代会が開催されました。

住職、野島責任役員からの挨拶の後、新総代会が紹介され委嘱状が手渡されました。

議事に入って、十五年度の行事報告、会計報告、監査報告があり承認。十六年度行事予定と会計予算も全員で承認しました。

営繕部から今年度の事業説明があり、昨年から持ち越しの懸案、集会所屋上の雨漏り防水工事を梅雨明けに行うことが報告されました。

また、住職から継職法要記念事業第三期工事を今年中に完成させることが報告されました。

議事終了後、三部会に分かれて各部長、副部長を選任しました。

総代会の後には教化推進協議会に移り、鬼原教化部長から、昭和五十八年に発足した善巧寺教化推進協議会の意味と本山の同会との関わりの詳しい説明があり、各会から活動報告を行いました。



平成十六年度営繕事業の決定事項

- 一、集会所屋上の雨漏り防水工事
- 一、第三期工事（玄関・旧事務所等改築）



中林富男さん
(下立)



田中正夫さん
(浦山)



野畑市郎さん
(栃屋)



丸田信夫さん
(栃沢)



川瀬八郎さん
(東狐)



川瀬常和さん
(東狐)

平成 16 年度 予算

(平成16年 4 月 1 日～17年 3 月31日)

単位：円

(歳入)	15年度決算	予 算	
1. 布施収入	10,584,153	10,750,000	
年中行事	1,494,988	1,550,000	御正忌・永代経・報恩講・空華忌等
門徒法要	9,089,165	9,200,000	
2. 寺費	4,873,000	5,000,000	
3. 雑収入	16,600	32,943	
4. 繰越金	1,023,020	417,057	
合計	16,469,773	16,200,000	
(歳出)			
1. 寺院維持費	2,731,212	2,635,000	
宗派課金	529,760	550,000	本山及び教区賦課金、門徒講金等
公租公課	39,500	40,000	法人負担税
諸会費	3,000	5,000	仏教団など
営繕修理費	1,542,940	1,500,000	修繕・保守点検・什器等
保険費	616,012	540,000	建物更正共済掛け金等
2. 寺院運営費	4,562,504	5,660,000	
教化費	539,370	600,000	教化活動に必要な経費
法要費	1,535,073	1,400,000	儀式法要
会議費	160,740	150,000	総代会・部会等に必要な経費
門徒接待費	319,308	350,000	茶菓・弁当・食事・お礼・お扱い等
事務費	349,203	350,000	事務用品・郵送費等
管理費	1,543,049	1,500,000	光熱費等
専門教育費	105,761	1,300,000	宗学教学を学ぶための経費
雑費	10,000	10,000	お見舞い等
3. 人件費	8,400,000	7,200,000	給与（住職及び衆徒）
4. 予備費	350,000	705,000	
合計	16,043,716	16,200,000	

平成 16 年度 行事

(H16年 1 月～17年 3 月まで)

月	行 事	講 師
4 月	11・清掃奉仕、24～5/18・ちぎり絵展、25・初参式	
5 月	23～24・専精舎夏講と本山参拝、30・総代会教化推進協議会	
7 月	3・仏婦研修会、4・清掃奉仕、16～19・永代経祠堂会	霊山勝海先生
8 月	13・青年盆会、15・こども盆おどり、16・盆会、22・雪ん子劇団定期公演	
10 月	3・清掃奉仕、19・20・報恩講、ちぎり絵展、おとりこし（富山、滑川、魚津、東狐青木、田家窪野経田柳沢、新浜、上下飯野高畑、板屋）、31・雪ん子劇団宇奈月町50周年記念セレネ公演結城美栄子と競演	川崎順正先生
11 月	4～5・空華忌、おとりこし（上野、出、中新、中陣、栃沢、石田、浦山新）	
12 月	5・清掃奉仕、おとりこし（愛本新、中ノ口、赤田、大橋、下村、下立愛本、内山、音沢）、30・もちつき、31・除夜会	
1 月	1・修正会、3・かるた会、おとりこし（栗虫）、13～16・御正忌報恩講、仏婦連盟教区新春の集い	服部法樹先生
2 月	おとりこし（三日市・生地・荻生・下立・舟見・入善・熊野・栃屋）	
3 月	おとりこし（浦山）、12・黒西組仏婦連盟総会、27・雪ん子劇団春の定期公演	

定例法座 お講…1、16日午前11時半 歎異抄講座…全10回午後7時
花の会…第一火曜日午後8時（冬7時半） 雪ん子劇団…月曜日午後4時

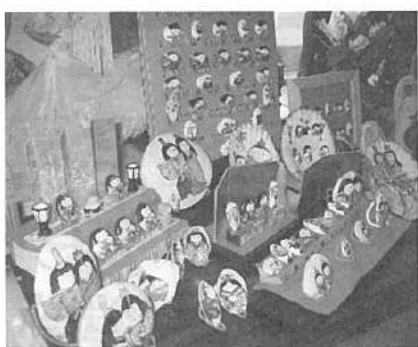
ご門徒紹介



谷川久美子さん（下立）

梅雨入りして間もない水無月の半ばに訪れ、谷川さんの爽やかな笑顔と作品に迎えられる。

八年前今も師事する先生の水墨画に魅せられ、始め「もっと、いろんな物を描きたい」「物を生かすことが好きで出来た作品を眺めるのが楽しい」と海岸で拾った石や貝殻にアクリル絵の具で、干支や雛人形の絵付けした



作品を、学校や福祉施設にプレゼントされている。また四年前から絵手紙も始められ一人暮らしの人たちに送り喜ばれている。

新しい物なら何でもとの好奇心が極めて旺盛で、今年から始まった宇奈月の朝市と作品即売会で「中山間地活性化協議会」に協力し「見手亭グループ」で売りさばき、観光



*谷川さんの作品は7月14～20日 門徒会館にて展示。

客に好印象を与えるようにと意欲を燃やしておられる。

こうした取り組みが必ず、観光客が今一度宇奈月温泉にと足を向ける基になり、町活性化に繋がると思う。谷川さんは、お孫さんを守りながらの活動であるが、老化する余裕が無いと見ました。(K)

仏教書紹介

「やさしい真宗講座」

靈山勝海師



平易で誰にでもわかる「真宗講座」をという本願寺新報からの依頼で執筆された本書。京都女子校で宗教科を担当された経験や、住職として門信徒の方々に日常接して教わったことが生かされたとおっしゃる。小説のお話から、身近な出来事まで、仏教に触れたことがない方にも、とても読みやすく書かれてある。

今回、めったにないご縁で善巧寺の永代祠堂会へご出講してくださいることになりました。どうぞ、時間を割いてお参りください。日中都合のつかない方は、十八日の夜、公開講座もあります。

寺
こよみ

八月

一日 石田・生地お講

二日 前々住職 釈俊之祥月

三日 青年盆会



四日 盆おどり練習会

五日 こども盆おどり

六日 盆会

七日 歎異抄講座

二二日 雪ん子野外公演

寺
こよみ

九月

一七日 歎異抄講座

前住職

釈隆弘祥月

特別仏教講座

7月18日(日)午後7時

講題：浄土真宗のころ

よしやま

講師：霊山 勝海 先生

(本願寺派勸学)

「浄土真宗ってどんな教え？」
今こそ、仏教とまじめに向かい合ってみましょう。仏教は生きている私たちのために説かれています。

浄土真宗において最高峰の先生をお迎えしての仏教講座。先生は多数の出版もされており、とてもわかりやすくお話しされます。どうぞこの機会をお見逃しなく！

*初学(かんがく)とは、定員18人真宗学・仏教学のスペシャリストです。

浄土真宗最高峰の先生がご来院！

えいたいしどうえ 永代祠堂会

七月十六日 十一時

中陣お講

十七日

一時

総代物故者法要

十八日

一時

戦没者追弔法要

十九日

一時

ご満座

内陣法名法要

講題 「歎異抄に聞く」

講師 本願寺派勸学 霊山勝海師

今年は土日はさんだ祠堂会となりました。どうぞ奮ってお参りください。

清掃奉仕お願い

七月四日午前八時半

(雨天順延)

暑い最中ですがお心ある方ご協力お願いします。

ストーンアーティスト 谷川久美子作品展示

七月十四～二十日

門徒会館にて



青年盆会

八月十三日

こども盆おどり

八月十五日午後六時半



盆会

八月十六日午前十時半

雪ん子野外公演

八月二十二日午後七時



歎異抄講座

午後七時

八月十七日(火)

九月十七日(金)

十月十三日(水)

十一月十一日(木)

十二月二十二日(水)

世界で一番読まれている仏教書「歎異抄」のおはなし聞いてみませんか。



合 掌

前回の寺報のグラを印刷所に届ける頃、前坊守の容態が急変して、お葬儀へとなだれ込むように時間が過ぎていきました。一月末から二カ月、横浜の妹と、息子二人とで交代の看護。時折嫁いだ娘が連れてくる前坊守にとつては初の曾孫の顔を見て可愛いね可愛いねと、よく動かない手を伸ばして手を握りそれはそれは嬉しそうな笑顔を見せてくれたことが忘れられません。

◇ ◇ ◇
初参式ではいのちのつながりの尊さを例年にも増して感じさせられました。赤ちゃん達が本当のいのちの尊さを仏様から教えていただけるように願ってやみません。

